風せんがとりもつ心のきずな

千葉の落花生に春日小の子どもたちは大喜び

山梨県春日小 ⟺ 鳥喰下　斉藤利吉さん

山梨県甲府市立春日小学校の創立80周年記念式典が11月18日に行われ、その席上、長年同校と交流し続けてきた斉藤利吉さん（70歳＝鳥喰下）に感謝状が贈られました。

斉藤さんと春日小学校との交流が始まったのは56年11月。春日小児童会主催の「春日祭」で放たれた子どもたちのメッセージつき風船を斉藤さんがねぎ畑で拾ったのがきっかけとなり、子どもたちと文通が始まりました。その間、春日小の子どもたちと父兄が横芝町を訪れ、山の学校の生徒と海の学校の生徒の交流もできました。斉藤さんはこれまで数回にわたり春日小を訪問し、千葉特産の落花生やねぎを贈るなど心のきずなが生まれてきました。

風せんを拾った当時の子どもさんとの再会によろこぶ斉藤さん

全校児童を前にあいさつする斉藤さん

80周年式典に招かれ、大歓迎を受けた斉藤さんは「こうして10年間もお付き合いできたことは、すばらしい春日小の先生方・子どもたち・地域のみなさんのおかげです。感謝状をいただくなんて思ってもみませんでした。」と―。そして、子どもたちに苦学した自らの体験を交え「どんな境遇にあっても心の持ち方で変わってくるものです。落ち込んだときには、心を前向きにもって頑張ってもらいたい。」と励まされたそうです。また、これからも交流を続けていきたいと話してくれました。

文芸

俳句

春光のあまねき薬師如来かな　勝又やすのり

せなの子の寝たる気配や初蛙　海保　きみ

停戦の電光ニュースや春一番　宮内　澄男

うすうすと掌にはかなきや桜貝　藤代　ゆう

馬鈴薯植へる決って暴る春一番　行方はじめ

おおあくび喉の奥まで春日さす　山口　一秋

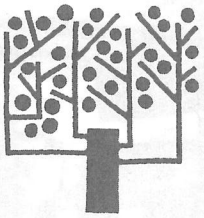
相倚りて離れて二人麦を踏む　鈴木　草庵

長き風邪治らぬままに花だより　若梅あやめ

親を恋ひ仔牛鳴く声春近し　鈴木　南知

接骨木の芽の勃勃と老いおもふ

（選者）土屋　栗水



短歌

戦争に若き日を経て老いし今中東紛争を怖れみつむる　斎藤　要

耳遠き父に電話の声高め体の具合ひあれこれ尋ぬ　佐瀬　初音

夕ご飯食べず臥しゐる熱の子に登校せよと言ひし悔ひをり　斉藤　佳子

戦ひにかたみに伴侶果てし後はげまし合きぬ友の逝きたり　秋葉　とく

冬畑に草引きをれば霜どけの土を大きく吊りて根張れり　掛川　友代

白き根の房なし伸びるメロン苗強き陽をさけポットに植ゑゆく　宇井　ちい

めぐり来る四十六度目の三月十日東京大空襲に友負ひ逃げき　池田　春江

鞍高き子の自転車のペダル踏みハミングしつつ野の道走る　大場　和可

うららかな光ふかぶか吸ひ込みし土に守られ葱太りゆく　斎藤　秀男

牝猿の肩を抱きて若き猿檻の中歩む誇らしげにも

（選者）斎藤つね子